特集 ことばを使う力を育てる

4技能の総合と統合をめざして

根岸雅史（東京外国語大学）

NEW CROWN はなぜ Reading に重きをおくのか

「中学の英語検定教科書には，読むことの言語活動はない。」これが，教科書作りに携わってみて，私自身が気づいたことだった。各課に評価規準を作ってみると，他の3技能には，個別の言語活動を割り当てることができるが，読むことの明示的な言語活動は教科書には存在してこなかった。

中学の検定教科書の読むことと言えば，いわゆる「本文」があった。しかし，この役割は明確ではない。もちろん読むための素材提供という役割もあるが，それ以外にも，新出言語材料の提供や音読素材の提供，パート練習の素材提供などの役割もある。また，従来の「本文」の多くは会話文であったために，そもそも「読むべきもの」かどうかという議論もあった。

さらに，こうした「本文」が教師のオーラル・イントロダクションなどにより導入されているために，そもそも生徒が自力で英文を読むという機会が奪われてきた。教師があれこれ手助けをして英文を理解したような感覚を生徒に持たせるのは，一見親切な行為に見える。しかし，この親切な行為のおかげで，生徒はある日突然（それは，模擬試験であったり，入試であったり，教室外の現実生活であったりするが），英文と自力で取り組まなければならなくなる。これが本当に「親切な行為」なのだろうか。

こうした問題意識から，*24NC* では，新出文法の導入に関わる英文とは別に，純粋に読むためだけの英文を提供することとした。これが USE Read である。新出文法の導入はこの前に終わっているので，学習者はここでは読むことに集中できるはずである。もちろん，生徒が自立的に読めるようになるための手立ては講じてある。それが，Pre-Reading, In-Reading，Post-Reading といった段階的な活動である。こうしたまとまった英文に自力で向き合う経験が，入試や現実生活での読みに向けての準備となるのである。

2年 LESSON 8 の USE Read では，India, My Country という新聞記事を読むことになっている。Pre-Reading では，レッスン冒頭にあるとびらの写真を見て，インドではどのような言語が話されているかを話し合う。次の In-Reading では，この新聞記事を読みながら，キーワードをもとに，どのような場面でどのような言語が話されているかを読み取る。そして，最後の Post-Reading では，インドで複数の言語が使い分けられている理由を話し合うことになっている。さらに，こうした自立的読みを支えるものとして，Words，Tips や Check が用意されている。これらの仕掛けは，すべて学習者が自力で英文を読む力をつけるためのものである。

統合的な活動とその意味

さて，ここまでは読むことを中心に見てきた。しかし，これは4つの技能のうちの1つの技能に過ぎない。4技能という観点から日本の英語教育を見た場合，そもそもそのバランスはとれていたであろうか。中学の英語の授業で言えば，聞いたり話したりという活動にはかなり時間が割かれていたと思われるが，書くことには必ずしも充分な時間が割かれていたとは言えない。また，定期試験などでは，授業でやっているほどには話すことに焦点が当たることはなく，また，書くことも教室内の言語活動とは関連性の薄い和文英訳などの問題が出ていた。

新学習指導要領では，技能の「総合」や「統合」ということが繰り返し強調されている。たとえば，『中学校学習指導要領解説外国語編』における「2　外国語科改訂の趣旨」には，次のように書かれている。

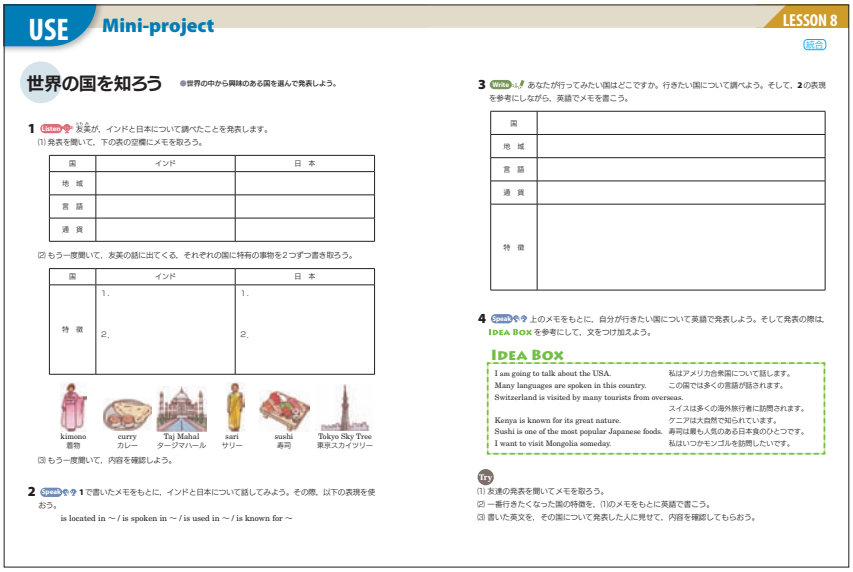
○ 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力，内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から，「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう，4技能を総合的に育成する指導を充実する。（下線筆者）

ここから明らかなのは，単に4技能をバランスよくやるだけではなく，有機的に技能を関連づけることが求められているということである。

これまでは，英語教師はともすれば技能を単独で捉えてきていた。これは一種の職業病かもしれない。しかし，実際の言語コミュニケーションを考えてみればわかるように，技能が完全に独立していることの方が少ない。会議で，資料を読み，メモを取りながら発言したり，テレビのニュースを見ながらその内容について話したり，メモを読みながらスピーチをしたり，といった具合である。

それぞれの技能を独立に手当てすれば，複数の技能を関連づけて用いることはできるようになるのではないかという考えもある。しかしながら，それは必ずしも正しくないだろう。全体は部分の総和よりも大きい。聞いたことについて自分の意見を言うのであれば，英語の音声を理解しながら，自分の考えを持ちそれを英語で表現しなければならない。誰かの話を聞いて，メモを取るのは，リスニング・テストで内容理解のテストをしたり，単にメモを書いたりするのとはわけが違う。

こうした認識に基づき，*24NC* では，総合的・統合的言語活動を USE における Mini-Project というセクションにおいて実現している。再び2年の LESSON　8 を見てみよう。ここでは，「世界の国を知ろう」という Mini-project がある。1の Listen では，インドと日本についての発表を聞いて，メモを取る。そして，2の Speak では，そのメモをもとに話す。次に，3の Write では，自分の行きたい国について調べて，メモを書く。最後の4の Speak では，3で作ったメモをもとに発表をする，となっている。Mini-project における各技能の言語活動はばらばらに存在しているのではない。聞くこと・話すこと・書くことといった技能が，有機的に結びついているのである。こうした言語活動に取り組むことで，現実の言語コミュニケーションを実感することができるのである。



USE Mini-project　LESSON 8　統合

世界の国を知ろう　●世界の中から興味のある国を選んで発表しよう。

1 Listen 友達が，インドと日本について調べたことを発表します。
(1) 発表を聞いて，下の表の空欄にメモを取ろう。

国	インド	日本
地域		
言語		
通貨		

(2) もう一度聞いて，友達の話に出てくる，それぞれの国に特有の事物を2つずつ書き取ろう。

国	インド	日本
特徴	1. 2.	1. 2.

kimono 着物　curry カレー　Taj Mahal タージマハール　sari サリー　sushi 寿司　Tokyo Sky Tree 東京スカイツリー

(3) もう一度聞いて，内容を確認しよう。

2 Speak 1で書いたメモをもとに，インドと日本について話してみよう。その際，以下の表現を使おう。
is located in ～ / is spoken in ～ / is used in ～ / is known for ～

3 Write あなたが行ってみたい国はどこですか。行きたい国について調べよう。そして，2の表現を参考にしながら，英語でメモを書こう。

国	
地域	
言語	
通貨	
特徴	

4 Speak 上のメモをもとに，自分が行きたい国について英語で発表しよう。そして発表の際は，IDEA BOX を参考にして，文をつけ加えよう。

IDEA BOX

I am going to talk about the USA.	私はアメリカ合衆国について話します。
Many languages are spoken in this country.	この国では多くの言語が話されます。
Switzerland is visited by many tourists from overseas.	スイスは多くの海外旅行者に訪問されます。
Kenya is known for its great nature.	ケニアは大自然で知られています。
Sushi is one of the most popular Japanese foods.	寿司は最も人気のある日本食のひとつです。
I want to visit Mongolia someday.	私はいつかモンゴルを訪問したいです。

Try
(1) 友達の発表を聞いてメモを取ろう。
(2) 一番行きたくなった国の特徴を，(1)のメモをもとに英語で書こう。
(3) 書いた英文を，その国について発表した人に見せて，内容を確認してもらおう。

BOOK 2　LESSON 8
USE Mini-project